

2026年3月期 第3四半期決算説明会（WEB 説明会） 質疑応答議事録

日時 2026年2月3日（火）10:30～11:00
説明者 取締役 経理・財務本部長 今井 英樹
司会 経理部長 小林 佳弘

- Q1. 第3四半期までの営業利益135億円に対し、通期予想は160億円となっている。差し引きすると第4四半期だけの営業利益が25億円で、かなり小さい金額に思われるがなぜか？
- A1. RAV4のモデルチェンジを予定しており、立ち上がりの生産台数が緩やかな為、北米セグメントの売上・営業利益が伸び悩む見込み。
また、中国セグメントでは春節による稼働日減少の影響で、売上・営業利益の減少が見込まれる為、第4四半期だけの営業利益は25億円で予想している。
- Q2. 第3四半期までの米国関税影響の実績・今後の回収見込みについて教えて欲しい。
- A2. 第3四半期までの米国関税影響累計額は10億円弱程度。
お客様からの価格転嫁の最終合意が頂けていない為、第3四半期までの実績としては減益要因となっている。ただし、価格転嫁に際する必要な手続きは概ね完了しており、お客様からの回答を待っている段階であるため、最終的には価格転嫁頂けると想定し通期業績予想での米国関税影響額はゼロとしている。
- Q3. レアアースの輸出規制による影響はあるか？
- A3. 弊社の製品にレアアースは使用されておらず、直接的な影響はない。
しかし、お客様の生産に影響が出る場合、弊社も影響を被る可能性はある。
- Q4. 半導体不足の影響はあったか？
- A4. レアアースと同様、弊社の製品に半導体は使われておらず直接的な影響はない。
しかし、自動車にとって半導体は非常に重要であり、お客様の生産台数減少となれば弊社も影響を被る可能性はある。
- Q5. 期初時点より、北米セグメントでの通期の営業利益予想がかなり下がっているがなぜか？
- A5. 期初時点にて織り込んでいた北米セグメントでの収益改善活動の進捗が想定よりも遅れており、利益見通しが悪化している。
- Q6. インドのカルコダ新工場の稼働はいつになるのか？
- A6. 稼働に向け、社内にて粛々と準備を進めている。
具体的な稼働時期に関してはお客様と協議を行っている段階であり、明確になった時点で公表させて頂く。
- Q7. 第2四半期時よりも通期業績予想での合理化改善額がかなり減少しているがなぜか？
- A7. 北米セグメントでは移民政策の厳格化に伴い、人員不足に陥らないよう従業員を多く抱え込んでいる。その為、人件費の負担による合理化改善の遅れが出ている。
売価設定についても、北米セグメントでの補給部品の値上げが認められず改善額を切り下げた事例がある。

以上